

子どもたちの夢や目標を実現させるために

『人の役に立つ人間になりたいと思いますか』の質問では、小・中学校ともに9割以上の児童生徒が当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答しており、自分の将来について前向きに考えている様子がうかがえます。学校では、『課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか』の質問に対して、小学校では約9割、中学校では約7割の児童生徒が当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答しており、主体的に学習を進めていこうとする姿勢がうかがえます。また、学習する際には、ICT機器を効果的に活用し、教員から支援を受けながら学習を進めていることがわかります。

しかし、『学校の授業以外に、普段(月から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか』の質問では、1時間以上勉強すると回答している児童生徒の割合が、全道・全国と比べて低い傾向にあり、家庭学習の時間が短いことに課題があるといえます。

このような児童生徒の状況を踏まえ、一人ひとりの資質・能力をさらにのばしていくために、学校では、児童生徒が主体的に取り組むための授業改善、ご家庭では、子どもたちが家庭学習に取り組むための環境づくりを進めてくださいますようお願いいたします。

『わかった』『できた』を実感しながら学び続ける子ども

～ 学校では ～

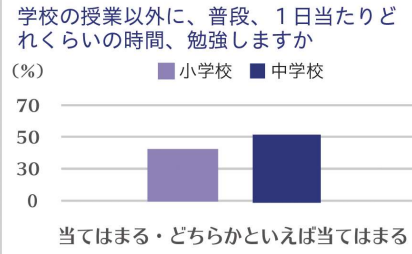
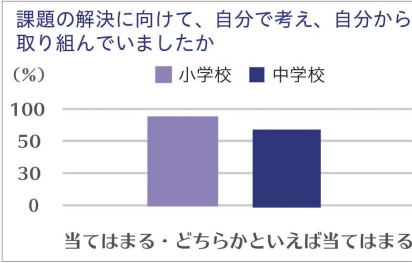
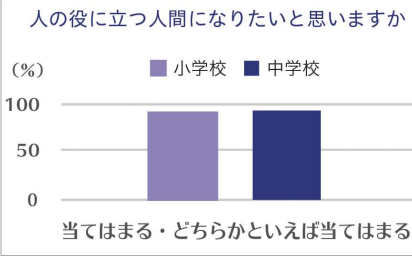
- ・子どもたちが主体的に取り組む授業づくりを行うとともに、一人ひとりに合わせた学びの環境づくりに努め、基礎・基本の力や学び方が身に付くよう指導・支援します。
- ・ICTを効果的に活用し、自分で考え、仲間と深め合う授業づくりを推進します。
- ・体力、健康、安全への意識向上と運動機会の保障を継続的に行います。
- ・学校間の情報共有を図り、連携の取組をさらに進めます。
- ・学校の様子をわかりやすく保護者へ伝えます。

～ 教育委員会では ～

- ・町内の学力・学習状況を分析し、成果や課題から改善策を提示します。
- ・ICTを効果的に活用して、児童生徒の確かな学力の育成を図るため、教師の指導力向上と授業改善の推進に努めます。
- ・探究的な学びのプロセスを大切に「ふるさと・キャリア教育」の推進に努めます。
- ・指導方法の工夫改善を進め、少人数指導や複数支援体制の学習の推進に努めます。

～ 家庭では ～

- ・『早寝、早起き、朝ご飯』の生活リズムを整え、継続しましょう
- ・家で学習する環境と習慣を整え、時間を決めて取り組みましょう(学習および読書時間の確保)
- ・親子で携帯電話・スマートフォンなど情報端末機器の使い方のルールをつくり、ルールを守って使用できるようにしましょう。
- ・親子の対話を大切にして、よい行いや努力をたくさん認め、個性を伸ばし、自信が持てるように励ましましょう。



お知らせします
厚岸の学びの状況

令和7年度 全国学力・学習等状況調査の結果について
●問い合わせ／教育委員会指導室(役場内)

令和7年4月17日に全国調査が実施され、過日、結果が公表されました。
今回の調査では、国語、算数・数学、理科の3教科と学習の状況をとらえるための児童・生徒質問紙調査が実施されました。
この調査で把握できる学力や学習状況は児童生徒の状況の一端ですが、学校教育活動の状況や児童生徒の学びの状況と傾向を捉えることで、今後の教育活動の改善を進めていきます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要

1. 調査期日 令和7年4月17日(中学生理科は、4月14日～17日のうち1日)
2. 調査対象 小学校6年生…57人 中学校3年生…47人
3. 調査内容 (1)教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
(2)質問紙調査(児童生徒に対する調査・学校に対する調査)

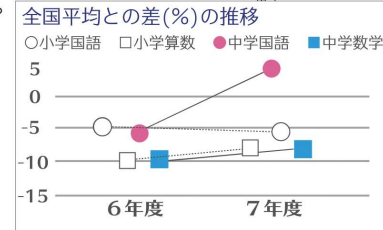
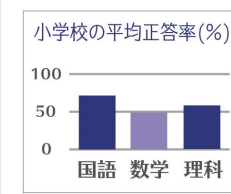
小学校

算数は昨年度に比べてやや改善傾向、理科は記述式問題で全国平均を上回る、国語『読むこと』、算数『測定』『データの活用』に課題

- 国語：『話すこと・聞くこと』○算数：『数と計算』
- 理科：『エネルギー』『粒子』『生命』
- 国語：『読むこと』●算数：『変化と関係』『データの活用』

○…正答率の高い領域 ●…正答率の低い領域

- ・国語では、『話すこと・聞くこと』の領域で、相手の意図や目的を意識して話し合うことに関わる問題の正答率が高い傾向にあります。『読むこと』の領域については、全国平均と比較して、差が見られます。
- ・算数では、『数と計算』の領域で、資料から必要な情報を選び、式に表して計算する問題の正答率が高くなっています。それ以外の領域では、全国平均と比較して、差が見られます。
- ・理科では、領域別で4領域中3領域で正答率が高い傾向にあります。また、記述式の問題でも正答率が高くなっています。



中学校

国語は昨年度に比べて大きく改善、数学は『関数』『データの活用』で改善傾向『数と式』『図形』に課題、理科は全国平均を上回る

- 国語：『話すこと・聞くこと』『書くこと』『読むこと』
- 数学：『データの活用』○理科：『粒子』『生命』
- 数学：『数と式』『図形』

- ・国語では、全ての領域において全国平均を上回っています。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にしたり、表現を工夫したりして記述する問題の正答率が高くなっています。
- ・数学では、『データの活用』の領域で、事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて表す問題において全国平均を上回りました。しかし、『数と式』や『図形』領域では、知識・技能の定着に課題が見られます。
- ・理科では、記述式の問題の正答率が高くなっています。

※IRTスコアとは受験者の学力など数値化したもので、500点を基準に500よりも高いほど学力が高いと判断されます。

